

科学館運営理念及び運営方針に基づく評価項目

福岡市科学館では、運営理念「人が育ち、未来をデザインしていく科学館」のもとに6項目の市民との「約束」（「運営方針」）を定めており、それぞれに指標を設定している。これらの達成状況について事業者の各種報告書や実地調査、ヒアリングをもとに評価を行った。

【評価の区分】

A	優良：目標を超える成果を挙げている。内容が特に優れている。
B	適正：計画に即して目標を達成している。内容が適正である。
C	要改善：目標が達成できていない点がある。もしくは内容の改善が必要である。

運営方針	活動計画	計画の構成	市評価	市総評
1 科学を担う人やクリエイターなどと市民とが交流することによって、新しいサイエンスコミュニケーションのあり方を提案していきます		<p>1 福岡市科学館や福岡などで活躍するサイエンスコミュニケーターを養成します</p> <p>2 人と人(スタッフを含む)の交流の機会を設定していきます</p> <p>3 九州大学を始めとする研究機関と連携を強め、人の育ちにつながる新しい教育プログラムなどを開発・提供します</p> <p>4 研究者やクリエイターに会える場のあり方を考え、このような場づくりに取り組みます</p> <p>5 若手クリエイターの創造活動を活性化させる事業を行います</p> <p>6 科学、音楽、アートなど様々な分野のスペシャリストとのコラボレーションや市民の参画により、独自のイベント・番組を企画・実施します</p>	B	<p>多様な交流の機会を積極的に設け、サイエンスコミュニケーションの推進に取り組んだ。 また、市民向け講座やサイエンスカフェ等を通じて、館スタッフの専門性や発信力の向上に努め、外部からサイエンスコミュニケーションに関する発表依頼が寄せられるなど、取組みの成果が見られた。 一方で、専門性や独自性の高いイベントでは集客面での課題が残っており、市民の多様な興味や関心に応える工夫が期待される。</p>
2 幼児から高齢者までに対応する展示とプログラムを充実することによって、すべての人が科学を楽しみ、創造するよろこびがある科学館をつくります		<p>1 各事業ごとに科学者や利用者の交流の質を上げたプログラムを企画・実施します</p> <p>2 広く多くの人が科学に興味を持てるように、バランスのとれた展示を企画し実施していきます</p> <p>3 市民参加を含む双方向性のある中高校生・大人向け企画を充実していきます</p> <p>4 幼児から大人まで幅広い年代が科学の関心を深めることができるように取り組みます</p> <p>5 基本展示室では、福岡市科学館独自のものを含む魅力ある展示アイテムへ更新します</p> <p>6 創造までを目的としたプログラムや、応用力を養成するプログラムも開発・実施します</p>	A	<p>新規の取組みとして、中学生が企画した中高生世代向けのサイエンスカフェを当事者参加型で実施し、中高生の利用拡大に努めた。 また、基本展示室においては、「生きものを守った森のひっこし」や「AIサイエンスコミュニケーター」など、幅広い年代が楽しめる新規展示を開発・追加した。 引き続き、幅広い利用者層に向けた多彩な取組みを継続していただきたい。</p>

運営方針	活動計画	計画の構成	市評価	市総評
3 子どもたちの好奇心・疑問・考える力・創造性が育つ機会を提供することによって、一人ひとりの科学する力が伸びることに寄り添います		<p>1 表彰などのインセンティブを用いながら、科学への受け身的態度から主体性を持った関心を引き出すような取り組みを進めます</p> <p>2 ひとりひとりの好奇心に対応していくように、子ども・市民の参画活動に積極的に取り組みます</p> <p>3 話題性のある科学情報や最新の科学情報、季節にまつわる科学情報を取得し、来場者の関心を深めるよう工夫した発信を行います</p> <p>4 多様な科学の事象に知的好奇心を持ち、自らが探究することを充実させるプログラムを実施します</p> <p>5 宇宙や天文に関する最新の情報や話題を、来場者の関心を深める手法で企画・実施します</p>	<p>A</p> <p>科学への関心を広げる機会を創出し、子どもたちの個性や興味に応じた学びを支援した。</p> <p>また、企画展等において、表彰やノベルティの活用など、積極的な参加につなげる工夫が見られたほか、「キッズクルー」では、子どもたちに後輩を育てる役割を担わせることで、自ら考え行動する力を育む機会となった。</p> <p>今後も幅広いネットワークを活かし、より多くの子どもたちが主体的に科学に関わる機会を創出していくとともに、子どもたちが参画できるような取り組みのさらなる広がりに期待したい。</p>	
4 多様な市民、科学者、教員、保護者などと科学の協働プログラムを開発することによって、子どもたちが社会のなかで成長できる環境づくりに貢献します		<p>1 未利用者との新たな関係づくりにアプローチします</p> <p>2 モデル校と科学のイベント・プログラムを協働で実施しながら、教育現場と連携を強化し、科学の協働プログラム開発につなげます</p> <p>3 ユニバーサルミュージアムを目指した取り組みを進めています</p> <p>4 科学館事業等で習得した知識やスキルを活かす事業を推進します</p> <p>5 市民(学生やセンターを含む)のアイデアを取り入れた福岡市科学館独自のイベント、プログラムを実施します</p>	<p>B</p> <p>連携ネットワーク事業において新たな団体との関係を構築するなど、多様な主体との協働事業を展開した。</p> <p>また、課題であった科学館未利用者へのアプローチとして、新たにWebアンケートを実施したものの、調査結果の活用には至っていない。</p> <p>今後は、得られたデータを丁寧に分析し、より多くの利用者の開拓につながるよう改善を図ることに期待する。</p> <p>さらに、ユニバーサルミュージアムの実現に向けて、案内や展示物の多言語対応に引き続き取り組まれたい。</p>	

運営方針	活動計画	計画の構成	市評価	市総評
5	福岡の人、モノ、コトなど、様々な資源を活用することによって、市民が科学的な視野で地域とその未来をデザインし、発信する活動を支援します	<p>1 九州大学を始めとする研究機関の研究者や有識者と共に地域の資源を活用したプログラムで、参加者と共に未来の福岡を考え、社会をデザインしていくことを実施します</p> <p>2 さまざまな科学技術や地域資源の情報発信・活用等を行い、地域文化の魅力度を促進します</p> <p>3 科学館連携ネットワークやその他個別の連携・協働を、面の広がりとして構築・推進します</p> <p>4 地域や産業の活性化、教育や福祉分野への支援活動を充実させることで広く産業界や地域の人々への貢献を行います</p> <p>5 市民参加の活動や科学館プログラムの成果を人々の成長の記録としてアーカイブ化します</p>	<p>A 地元企業や学校、地域団体等と連携して新たな企画を実施するなど、積極的に地域連携に取り組んだ。</p> <p>また、水素エネルギー事業等の福岡市の先進的な取組みに関するイベントや、地元商店街との協働事業、県内のセメント工場の見学など、継続的に地域資源の情報発信を行っている。</p> <p>今後も、積極的にネットワークを構築し、福岡の魅力発信に寄与することを期待する。</p>	
6	利用者との対話・交流を進めることによって、施設や事業の改善に努め、日々進化する科学館を目指します	<p>1 独自の外部評価委員会による事業評価を行い、改善を進めます</p> <p>2 福岡市科学館の運営方針を検討するサイエンスコミュニケーション開発会議の円滑な運用に努め、プロジェクト分科会で有識者意見を取りまとめます</p> <p>3 多くのリピーターを獲得していくため、来館者、運営サポーターと科学館スタッフからの意見聴取を行い、意見・要望には真摯に対応し、共に科学館を創っていくという参画意識を醸成していきます</p> <p>4 個別ヒアリングも含めた利用者アンケートを作成し、アンケートやモニターの結果から真の意見・要望の掘り起こし、丁寧な対応で「科学館ファン」に繋げます</p> <p>5 専門知識習得やよりよい来館者対応のため、スタッフ・運営サポーターに対する研修を定期的に行っています</p> <p>6 半年に1度面談を行い、スタッフの成長につなげ、職場環境の改善を図ります</p>	<p>B 一日学習で来館した児童向けに、タブレット端末を活用したアンケートを新たに開始し、取組み内容の見直し、改善に取り組んだ。</p> <p>また、外部評価委員会やSC(サイエンスコミュニケーション)開発会議の開催など、外部の意見も積極的に取り入れ、事業の改善に努めた点は評価できる。</p> <p>今後も利用者アンケートや館スタッフ等の声を真摯に受け止め、事業の改善に努められたい。</p>	